

小学校の統合に関する説明会を開催しました

間 教育委員会適正配置推進室 58・2111
(内線7108・7109)

教育委員会では、複式学級が発生している小学校の教育環境の早期改善に向けて、「(仮称)つくばみらい市義務教育施設適正配置再検討計画(案)」の一部(すでに複式学級が発生している学校に関する計画案)を作成しました。

この計画案の内容を説明するため、パブリック・コメントの実施に併せ、1月26日(土)に説明会を開催しました。つきましては、主なご質問と回答内容をお知らせいたします。
なお、ご意見は趣旨を踏まえて要約しています。



説明会の様子

市民 統合について地域住民の意見は取り入れているのか。また、反対意見もあったのではないのか。
市 これまでも説明会やPTA代表の皆さまと意見交換などを重ねてきました。反対意見も当然ありましたが、子ども達の教育環境を第一に考え、行政判断で今回の計画に至りました。また、早く統合を進めて欲しいという賛成意見も当然ございました。

市民 東小学校は地域に根差した学

校で、昔から地域住民が児童を見守って協力してきた。学校がなくなると、地域へのダメージも大きい。
市 地域の皆さまには学校運営に對してご支援ご協力いただき非常に感謝しており、東小学校には東小学校の良さがあることも理解しています。しかし、将来的には30人を下回る規模が予想されるため、教育的観点から統合を判断しました。新しい学校でも、引き続き皆さまのご支援をお願いするところです。

市民 対等な統合であるなら、中間地点に学校を建てるべきではないか。
市 つくばみらい市が合併した際も、対等合併ということで、新庁舎を造らずに伊奈庁舎と谷和原庁舎としました。また、名称も改めて決めました。今後、統合準備委員

(仮称)つくばみらい市義務教育施設適正配置再検討計画(案)(すでに複式学級が発生している学校に関する計画案)の抜粋

現段階で複式学級が生じている学校については、**2020年4月に統合**します。

■複式学級解消の進め方

学校規模分類	学級数	小学校(計12校) ※カッコ内は学級数
過小規模校	複式学級	三島小学校(5) 東小学校(4)
	6学級以下	小張小学校(6) 豊小学校(6) 谷原小学校(6) 十和小学校(6) 福岡小学校(6)
小規模校	7～11学級	—
標準規模校	12～24学級	谷井田小学校(12) 板橋小学校(12) 小絹小学校(18) 陽光台小学校(24) 富士見ヶ丘小学校(19)
	25～30学級	—
大規模校	31学級以上	—

複式学級の
早期解消標準規模校と
一緒になる

■複式学級解消による改善点の例

【教育活動における改善点】

- ・児童数が増えるため、遠足や社会科見学などを単学年で行えるようになり、同学年同士の学習の機会の拡大や内容の充実が図られる。
- ・個々の学校で取り組んでいた独自の学習をより多くの児童に対して実施することにより、多種多様な教育が可能となる。
- ・多様な意見に触れながら、自ら学ぼうとする態度や能力を身につける学習活動が展開できる。
- ・経験年数や専門性、男女比など、バランスのとれた教員配置ができる。

【PTA活動や保護者・地域との連携における改善点】

- ・保護者数が増えることで、PTA活動による保護者への負担が軽減されやすくなる。
- ・地域を交えた独自の交流イベントも、より広範囲を対象に実施することができ、地域に根差したイベントとして、さらなる充実が図られる。

■本計画における複式学級解消に向けた課題

三島小学校の中学校区は、伊奈中学校と伊奈東中学校に分かれることから、学区の変更が考えられます。学区の変更については、学校関係者同士の話し合いを踏まえて決めていきます。